

帰化水生雑草の大暴れ

讃岐の金比羅さんの麓に農業大学校ができ、その水田で新職員の農試OB達が水稻を作ったところ、つる性の雑草が大発生し、収穫時に蔓が巻きついて、コンバインが立往生したことがあった。収穫後、生徒を動員して草拾いを行ない、やっと雑草を抑えた。これは、稲収穫後そのままトラクターで鋤き返すと、切れた雑草が翌春発芽し、田面に蔓延するためであった。そこで、これを抑える除草法の研究ということもあって、植調委託の新除草剤を試験することになった。それ以来、神崎氏の調査研究から、この雑草はアゼガヤや従来からの雑草でなくてキシウスズメノヒエらしいことがわかってきた。昭和54年、植調発行の「農作物の除草に関する実態調査報告書」の中で、キシウスズメノヒエの発生面積が報告されているのは、岐阜・愛知・三重・和歌山・福岡・熊本・鹿児島 の7県である。香川県で発生があるとは考えられていなかったようである。ところが、この学校の圃場では、大部古くから発生していたのではないと思われる。そこで、同じ水系の畦畔などを調べてみると、あちこちに存在することがわかってきた。今後は、本格的に調査されなければならないと考えている。本誌12巻6号で、京大の植木教授の「水生雑草の分布と発生実態」を読み、この植物が粗飼料作物として水田に栽培されたとの記事から、西南暖地水田生産力増強事業で九州から導入して試作したことを思いだし、苦笑を禁じ得なかった。同じ *paspalum* 属に、牧草のアメリカスズメノヒエ、シマスズメノヒエがある。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
近畿・中国・四国支部長 末沢一男〕

目 次

(第13巻第12号)

樹園地における除草剤連年使用の影響 …… 2

＜香川県農業試験場府中分場 高橋健二＞

1. は じ め に…………… 2
2. 樹園地の除草剤使用体系…………… 2
3. 除草剤の連用の影響…………… 2
4. 除草剤の適正な使用法…………… 6

第7回APWSS 出席ならびに熱帯

農業を視察して…………… 7

＜日本植物調節剤研究協会 田口 宏＞

昭和54年度転作（大豆）関係除草剤

試験成績概要…………… 18

＜九州農業試験場 宮原益次＞

昭和54年度畑作マルチ資材試験成績

概要…………… 24

＜東北農業試験場 加藤明治＞

昭和54年度春夏作芝生関係除草剤・

生育調節剤試験成績概要…………… 28

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

外国文献抄録 …… 33

植調協会だより …… 36

表紙の写真は、ナガエコナスビの種実
表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影した
もの；網目突起型×3800.

〔写真提供者；笠原安夫氏〕